

日本英学史学会 中国・四国支部

ニュースレター

No.54

Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter

平成 20 年度 日本英学史学会 中国・四国支部 総会

第 1 回 (通算 58 回) 研究例会のご案内

拝啓 新緑の候、会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より当支部の発展のために温かいご支援とご協力をいただき心から感謝申し上げます。

さて、平成 20 年度支部総会、及び第 1 回 (通算第 58 回) 支部研究例会を下記の要領で開催いたします。研究例会では、田中正道先生、上杉 進先生、能登原昭夫先生による研究発表が予定されています。皆様ぜひお誘いあわせの上、ご参集くださいますようご案内申し上げます。

末筆ながら、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

敬具

日本英学史学会 中国・四国支部

プログラム

日 時： 2008 年 5 月 24 日 (土) 12:00 受付開始

会 場： 広島県立生涯学習センター (ぱれっと ひろしま) 3 階 第 4 研修室

〒732-0052 広島市東区光町二丁目 1-14 TEL : 082-262-2411

参加費： 会員、非会員とも無料

支部総会 (12:30 ~ 12:50)

議長選出、前年度活動報告、会計報告、会計監査報告、新年度活動計画、その他

開会行事 (13:00~13:10)

支部長挨拶

研究発表 (1)(13:10~14:10)

昭和初期のラジオ「受験講座」

田中 正道 (兵庫教育大学名誉教授・広島大学名誉教授)

研究発表 (2)(14:20~15:20)

志士たちの洋学

上杉 進 (元 高水高等学校)

研究発表 (3)(15:30~16:30)

吟香余聞

能登原 昭夫 (元 山陽学園大学)

閉会行事 (16:30~16:50)

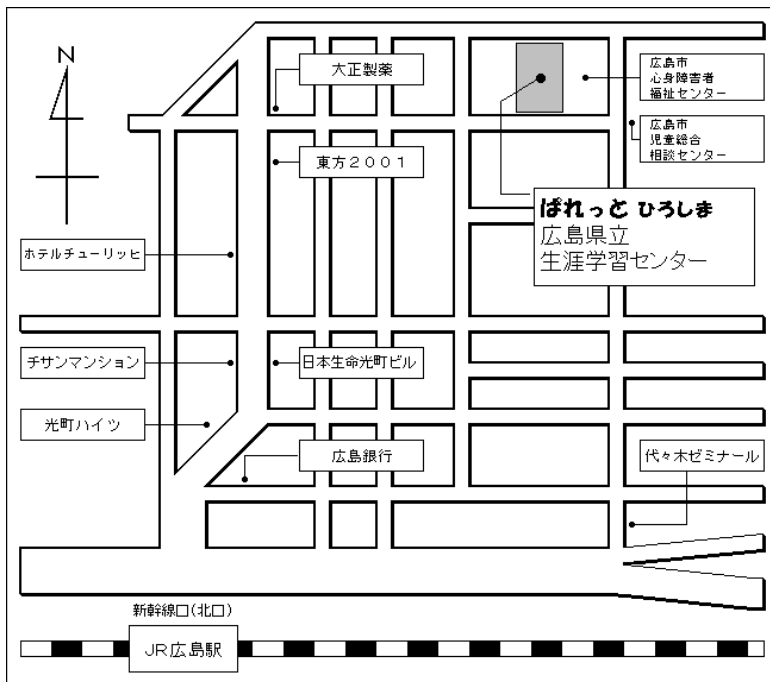
副支部長挨拶、写真撮影

懇親会 (17:30~19:30)

広島駅ビル西側2階 広島ライオン (082-261-0036) にて (会費 4,000 円程度)

研究例会会場への交通案内

以下の情報は、「ぱれっと ひろしま (広島県立生涯学習センター)」ウェブサイトより



JR 広島駅新幹線口 (北口) から
約 700 メートル

JR 広島駅南口から約 900 メートル
(駅構内地下自由通路を経由)

紙屋町からバス (広島バス) 約 20 分

- ・ 県庁前 ~ 戸坂東浄団地行
(若草町下車約 600 メートル)
- ・ バスセンター ~ 寺分行
(若草町下車約 600 メートル)
- ・ バスセンター ~ 上温品行
(若草町下車約 600 メートル)
- ・ バスセンター ~ 上深川行
(若草町下車約 600 メートル)
- ・ バスセンター ~ 小河原車庫行
(若草町下車約 600 メートル)

中国・四国支部ニューズ

>> 事務局よりお知らせとお願い

名簿の改訂について

例年通り名簿の改訂を行います。これまでの登録情報を記した別紙を同封していますので、変更のある方は事務局までお知らせください。

5月19日(月)までにご連絡を頂ければ、例会時にお渡しする今年度の名簿に掲載いたします。詳細は別紙をご覧ください。ご協力の程よろしくお願いたします。

なお、この別紙には、5月24日(土)の研究例会の出欠についてもご記入くださいますようお願いいたします。

会費の納入について

5月24日(土)の研究例会へご参加の方は、平成20年度年会費(一般3,000円、学生2,000円)を受付でお支払いください。その際に『英学史論叢』第11号、および今年度の名簿をお渡しする予定です。

例会に参加されない方へは、例会終了後、今年度の紀要、名簿とともに、年会費用の振込み用紙をお送りしますので、お手元に到着次第、お振込みくださいますようお願いいたします。

なお、前年度までの会費を未納の方へは、複数年分をご請求申し上げます。ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

紀要掲載料について

『英学史論叢』第11号の「研究論考」および「研究ノート」の執筆者の方は、5月24日(土)の研究例会受付にて掲載料をお支払いください。規定の10ページまでは3,000円、超過分は1ページ当たり1,000円を申し受けます。その際、「研究論考」「研究ノート」執筆者の皆様には、『英学史論叢』第11号を2部お渡しします。当日ご欠席の方には、例会終了後に、振込用紙とともにご送付申し上げます。

研究発表者を募集します

今年度第2回研究例会(12月14日(土)福山平成大学にて開催予定)の発表者を募集します。研究発表(口頭発表30分・質疑応答20分・計50分)をご希望の方は、9月末までに事務局へご連絡ください。特に若い会員の皆様の積極的なご発表をお願いします。

ニューズレター原稿募集

英学史にまつわる「エッセイ」「研究メモ」「読書ノート」などの原稿をお寄せください。いずれも400~800字程度の分量で、電子メールまたはワープロ印字原稿を事務局までお送りください。次号以降のニューズレターに掲載させていただきます。英学史研究の「裾野」を広げるため、多数の皆様のご投稿をお願いいたします。

研究情報をお寄せください。

皆様の英学史研究に関する新刊、発表論文、講演、研究発表、市民講座、雑誌記事などの情報をお寄せください。ニューズレターでご紹介するとともに、今後の研究例会企画の参考にさせていただきます。

ニューズレター広告の募集

ニューズレター1ページ(A4)の4分の1サイズの広告を募集します。ご自身の著書等、英学史に関わる広告を奮ってお寄せください。広告料は4号分のニューズレター掲載で5,000円です。なお、本ニューズレターは、毎号印刷版80部を発行しています。また、ウェブサイト上で広く世界に公開しています。

>> 会員移動(敬称略)

入会

中村浩路(岡山県・復会していただきました)

英学史学会全国ニューズ

>> 第45回全国大会

平成20年度の日本英学史学会全国大会は、「フェートン号事件200年」を記念し、長崎大学(長崎市)を会場に日本語教育史学会との共催で行われます。開催日は、2008年10月25日(土)・26日(日)・27日(月)です。

日本英学史学会(本部)の会員登録には、中国・四国支部とは別に手続きが必要です(入会金2,000円、年会費5,000円)。本部の会員登録をしていらっしゃる方で、全国大会にご関心をお持ちの方は、支部事務局までお問い合わせください。

広島英学史の周辺(20) 事務局を担当するようになって、早5年の月日が流れました。ニューズレターも35号から年4回のペースで発行し、今回で20号を数えます。そのときどきに英学史関連の話題を紹介しようと始めたこのコラムも、記念すべき20回。折に触れて研究情報をご提供くださる皆様に感謝申し上げます。

風呂 鞏先生主宰の「ラフカディオ・ハーンの会」は、年内に第100回の例会を迎えられるそうです。例会で配布される膨大な資料には毎回圧倒されますが、毎月例会を続けておられる風呂先生をはじめとする会員の皆様の情熱に、心から敬意を表したいと思います。

今年はフェートン号事件から200年。秋の日本英学史学会全国大会は、日本英語教育史学会との共催で、フェートン号事件ゆかりの長崎で開催されます。太平の世に現れたイギリス軍艦が日本の英学、英語教育の進展にどんなに大きな影響を与えたか。その舞台となった地でじっくり考える機会になればと、今からとても楽しみにしています。3月に庄原の大学キャンパスで公開講座を行いました。テーマは「英語で読む倉田百三」。庄原の生んだ百三の代表作『出家とその弟子』と、グレン・ショーによる英訳を紹介しながら、作品の背景や日英比較、英語学習法への展開を盛り込んだ90分でした。『出家』は大正6年に出版され、旧制高校の学生を中心に広く読まれた「青春の書」と言われます。手元の一番古い版は大正10年、124刷ですが、早いペースで増刷されていたようです。作中のセリフのあちこちに、共感を覚えるフレーズが溢れています。それらをほんの少し、英訳と対比させながら紹介していきました。一例を挙げてみます。

親鸞「私たちの魂の真実をごらん下さい。私たちは愛します。そしてゆるします。他人の悪をゆるします。その時私たちの心は最も平和です。私たちは悪いことばかりします。憎みかつのろいます。しかしさまざまの汚れた心の働きの中でも私たちは愛を知っています。そしてゆるします。」

Shinran: "Look at the reality of our souls. We love. We forgive. We pardon others' faults. Then our hearts are most peaceful. We do but evil. We hate and curse. But in the midst of the diverse workings of our soiled hearts, we know love. And we forgive."

(この箇所をあるブログで引用したところ、「『出家とその弟子』の日本語は英語からの翻訳のようにも読めてしまう独特の文体ですね。この引用箇所はどちらがオリジナルなのかかわからないくらいです」というコメントを頂戴しました。全くその通りだと思います。)



庄原英学校跡地に立つ藤木の桜は、樹齢300年ほどになるエドヒガン。春の夜のライトアップは壮観です。その豊かな枝ぶりは、校舎の間近に迫っていたと言われています。

大正11年に北星堂から出された英訳 *The Priest and His Disciples: A Play* は原文に忠実で、平易な英語で書かれ、音読して実に心地よいものです。残念なのは、この英訳が古書でもなかなか手に入らないこと。いつか大学で英語のテキストとして復活させることができれば、と思っています。『出家』のフランス語訳 *LE PRETRE ET SES DISCIPLES* (1932) の序文でロマン・ロランは次のように書いています。

欧亜(ユーラシア)芸術界の最も見事な典型の一つで、これには西洋精神と極東精神とが互いに結びついてよく調和している。この作品こそ、キリストの花と仏陀の華、即ち百合と蓮の花である。現代のアジアにあって、宗教芸術作品のうちでも、これ以上純粋なものを私は知らない。

「百合」と「蓮」、原文のフランス語は lys と lotus。グレン・ショー(紅蓮 尚)の英訳を読んで絶賛したロマン・ロランは、倉田百三の「百」とグレン・ショーの「蓮」の字が、それぞれ lys と lotus を表す日本語に結びつくことを知っていたのでしょうか。英学の春です。5月の総会と例会でお目にかかりましょう。(馬)

日本英学史学会 中国・四国支部ニューズレター No.54

2008年4月30日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部(代表 竹中龍範)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町562

県立広島大学 馬本研究室内

電話&FAX: (0824) 74 - 1725 (直通)

e-mail: umamoto@pu-hiroshima.ac.jp

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部